

よらおかね 小石

発行者
小合地域コミュニティ協議会
(コミュニティセンター内)
☎0250-25-2299
発行人/阿部 繁
編集/総務部

地域の人口動態
令和5年6月末現在
世帯数 1,287 世帯
男 1,753 人
女 1,805 人
人口 3,555 人

「つながり」を大切に 小合小学校の絆

新潟市立小合小学校

校長 松島慎一郎



伝統ある小合小学校に
着任して3か月が経過し
ました。小合小学校の子
どもたち、保護者・地域の
皆様、そして教職員のす
てきな笑顔が輝く学校づ
くりを努めたいと思っ
ています。

さて、当校では、地域と
ともにある学校として、
「つながり」を大切に
してきました。教職員同
士の結束、教職員と保護

者の信頼関係、そして教
職員と地域の連携・協働
は、当校の大きな強みで
あり、充実した教育活動
の実現の根幹を支えてい
るものです。

教職員相互の「つなが
り」は、私たちが共有する
学校教育ビジョンの達成
を目指した使命感やそこ
に向けた情熱に根ざして
います。定期的なミーテ
ィングや校内研修を通じ
て、日頃から情報共有を
大切にし、こうしたなか
ら生まれる対話や結束・
連帯感は、子どもたちに
とってはすばらしい学習
環境をつくり出す基
盤となっています。
また、教職員と保護者
の「つながり」は、子ども

たちの成長において重要
な役割を果たしています。
保護者とのコミュニケーション
は、学校と家庭の
間の懸け橋となり、子ど
もたちが安心して学び、
成長できる環境を構築し
ます。保護者への定期的
なお便りや面談、学習参
観などを通じて、学校及
び子どもたちの様子を知
ってもらおうと同時に、当
校の教育活動への理解と
信頼関係の構築を心掛け
ています。

さらに、小合地域コミ
ュニティ協議会の皆様を
はじめとした、地域との
「つながり」も大切です。
昨年度からコミュニティ
イ・スクールが始動し、今
後、より一層地域との連
携・協働は必要不可欠に
なってくるものと思いま
す。地域の方々との協力
や交流は、学校の教育活
動を豊かにし、地域社会
への貢献を促進します。

子どもたちにとっては、
実生活での学びの機会を
提供し、社会的な意識と
責任感を育むことに役立
ちます。

「つながり」を意識し
た私たち小合小学校は、
教職員同士の結束、教職
員と保護者の信頼関係、
そして地域との連携・協
働が根付いた学びの場
です。

子どもたち相互のかか
りも、自分の学級に限
らず、縦割り班活動など
を通して、思いやりの心
や責任感など大切な力を
育んでいます。

子どもたちが個々の能
力を最大限に発揮し、心
身ともに健やかに成長で
きるよう、「地域総がかり
」で子どもたちを支えてい
きましょう。どうぞよろ
しくお願いいたします。



第26回ソフトバレーボール大会を

開催しました!!

令和5年6月25日

恒例の小合地区親善ソフトバレーボール大会が、四年ぶりに開催されました。
6チームによるトーナメント方式で行われ、10代から70代の男女の幅広い参加者が、ともに汗を流し、熱のこもった楽しい大会となりました。(保健体育部)

出場チーム

- ・ 小戸下組
- ・ チーム出戸
- ・ NBR (大鹿)
- ・ サンクス (大鹿)
- ・ 栗宮マロン (栗宮)
- ・ スターチス
- (スポーツ振興会)



表彰

- 優勝 サンクス
 - 準優勝 NBR
 - 第三位 栗宮マロン
- おめでとうございました。



「お役立ち講座」を

開催しました

令和5年6月24日

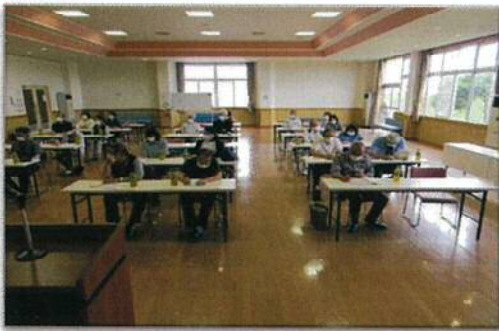
テーマ

『介護保険制度のしくみ』
『交通安全で大切なこと』



皆さんが利用する制度だけでなくに真剣に聴いている表情が印象的でした。

また交通安全では、講師の先生が、愉快に分かり易く話され、楽しく有意義な講座となりました。(福祉厚生部)



「こじかクラブ」

の支援に

匿名での寄付



地域や学校の要望でスタートした小合東放課後児童クラブ「こじかクラブ」は3年目に入りました。子どもたちは毎日元気です。これまでの支援に感謝申し上げます。(現在20人)これからもよろしくお願ひします。
今年度寄付130,146円
ありがとうございました。

おいしく

食べる

よく動き

転ばない

よく眠る

健康長寿のお手伝いをします。

○ 8月30日 (水)

フレイル予防第1回

○ 9月27日 (水)

フレイル予防第2回

○ 10月25日 (水)

生活習慣病の予防

(肺がん検診と同時開催)

会場・コミュニティセンター

◎小合コミ協は、連続で健康講座を企画しました。

(区健康福祉課と共同)

小合の

「未来ビジョン」

を作ります

少子高齢化や人口減少が進む中、秋葉区の全11コミ協による各地域の5年先、10年先の未来像「未来ビジョン」の策定作業が始まります。

自治協議会提案事業として秋葉区の後援で取組みを進めます。

小合コミ協は、8月より具体的な取り組みをスタートさせます。開催内容が決まりましたら改めてご案内いたします。

多くの皆様の参加をお待ちしております。



令和5年度

「小合地区敬老会」

を開催します

日時

令和5年10月8日(日)

午前10時から11時45分まで

会場

小合地区コミュニティセンター

(大ホール)

対象者

昭和22年4月1日以前に生まれた方

参加費

500円(折箱・赤飯・飲み物)

※ 詳細は後日ご案内いたします。

おはなしの玉手箱から「絵本の貸出し」のお知らせ

私たちは、絵本の読み聞かせを地域の皆さんに届ける活動をしています。

保育園をはじめ、小学校、

いきいきサロンなどから依頼を受けて、訪問しています。

この度、もつと玉手箱の本棚を皆さんに活用して頂きたいと思い、本の貸出しをすることになりました。

いつでもコミセンが開いている時に貸出すことができます。

玉手箱の本棚はコミセンの集会室入口脇にあります。

本棚から本を選び、「貸出しノート」に必要事項を記入し、2週間を目途に返却してください。

貸出し又は、返却の際、いずれも事務所にお立ち寄りください。「貸出しノート」は事務所にあります。

お気軽にご利用ください。



(栗宮自治会公会堂にて)

ふるさと小合のあれこれ

小合中学校建設秘話

昭和22年 戦後の新しい学校教育制度により男女共学の三年制中学校がスタートしました。小合にはすでに小学校が3校あり、それぞれに高等科が併置されており、それを統合して1か所にしようとするものでした。

しばらくは校舎もなく、小合東小学校並びに小合西小学校を間借りしての授業でした。一期工事完成後も午前と午後に分かれての二部の授業であったり、校舎建築の手伝いをさせられたり勉強どころではなかったようです。

教育に関する地域の関心は極めて高く中蒲原郡内でも早期の独立校舎を設けることになりました。

※校舎建設資材

とにかく物資がなかった時代、物の価値がどんどん上昇し、建設計画を立てられません。そこで建設資金をまとめて津川方面で杉の材木を



直接購入しようとの計画がまとまりました。当時の代表が津川方面へ出かけ、購入した材木で筏を作り、中新田あたりまで下ってくるというのですが、まさに「命がけ」でありました。

実際に激流により筏が壊れ、命から逃げてきたという事もあったらしいのですが・



※校舎建設用地

一瞬のチャンスでした。農地等の交換分合により、小さな農地を寄せ集め大きな方形の整備された田畑を作り出した時期と重なったのです。もともと土地の面積は、年貢

(税金)算出の基準となるため、少しだけ「小さめに登記」されていた。という事は、こうした小さな土地を合わせていくと実際の登記された面積よりも大きな土地ができしてしまう「帳簿にない土地」があらこちらに発生することとなりました。この時、当時の小合の人たちは考えました。この「簿外の土地」をあらかじめ一か所にまとめるように農地を集約していったのです。結果として中学校の校舎を建てられるだけの土地が所有者不明のままできあがったのでした。

※埋め立て

県道工事により残土を譲り受けるという幸運にも恵まれました。当時の川根集落の神社横に県の管理する残土置き場があり、そこから中学校までトラックが敷かれ残土を運びました。適度な傾斜もあり、中間あたりまでは自然降下、途中から人力で押すという作業だったそうです。

※小合中学校グラウンド

小合地域には園芸業が多く、生産者のほかに造園業者もいます。



この地域ではグラウンドの工事も地域に人たちの勤労奉仕(ボランティア)でしたが、現在でも土木工事の高度な技術として「暗渠排水」という方式が使われることがあります。この場所での技術を取り入れられたことにより、たとえ直前まで雨が降っていたとしても、雨さえ上がれば一時間ほどで競技ができるという優れたもののグラウンドが完成します。このため、新津郷、小須戸郷の中学校陸上競技大会の会場として使われていました。

いずれにしても地域の先人方の情熱と行動力によって、他地域に先駆けて校舎を建設することができたのでした。

『おおきなお世話』新藤幸生氏

平成28年制作より抜粋